

表7-1 地域保健分野の対象者の属性(N=46)

	人	%
所属		
都道府県保健所	26	56.5
政令市保健所、保健センター	17	37.0
市	1	2.2
都道府県庁	1	2.2
不明	1	2.2
職位		
主任	7	15.2
係長級	26	56.5
課長補佐級	10	21.7
課長級	1	2.2
不明	2	4.3
保健婦経験年数		
15-19年	3	6.5
20-24年	14	30.4
25-29年	22	47.8
30-34年	6	13.0
不明	1	2.2
年代		
20代	0	0.0
30代	0	0.0
40代	26	56.5
50代	20	43.5
60代	0	0.0

注)1)政令指定都市、中核市、特別区を含む

表7-2 保健機関に勤務する保健婦の地域活動のスキルの妥当性について

スキルの分類		保健機関に勤務する保健婦 (N=46)										
項目	細項目	番号	スキルの内容		妥当		まあまあ妥当		不適切		不明	
			人	%	人	%	人	%	人	%		
基礎的スキル	地域診断	事前の状況認識 関係分析 (アセスメント) 問題分析 情報管理	1	社会情勢の変化を把握する技術	40	87.0	5	10.9	1	2.2		0.0
			2	ニーズ・情報を把握する技術	41	89.1	3	6.5	2	4.3		0.0
			3	事例の問題と地域の課題を関連させる技術	39	84.8	5	10.9	2	4.3		0.0
			4	関係者(機関)の実態を把握する技術	37	80.4	7	15.2	1	2.2		2.2
			5	関連する関係者(機関)の範囲を判断する技術	37	80.4	7	15.2	2	4.3		0.0
			6	支援関係を判断する技術	38	82.6	7	15.2	1	2.2		0.0
			7	関係者(機関)の支援力、協調力をアセスメントする技術	42	91.3	2	4.3	2	4.3		0.0
			8	関係性の中にある問題を引き出す技術	36	78.3	6	13.0	3	6.5	1	2.2
			9	実態調査を企画、実施する技術	40	87.0	4	8.7	1	2.2		2.2
			10	地域の実態を分析する技術	38	82.6	5	10.9	3	6.5		0.0
			11	情報を統合する技術	37	80.4	6	13.0	3	6.5		0.0
			12	潜在的な問題を把握する技術	37	80.4	6	13.0	3	6.5		0.0
			13	日頃から情報収集する技術	36	78.3	8	17.4	2	4.3		0.0
			14	資料作成技術	33	71.7	12	26.1	1	2.2		0.0
			15	情報の管理(整理を含む)技術	33	71.7	10	21.7	3	6.5		0.0
			16	伝達技術	36	78.3	8	17.4	1	2.2		2.2
エンパワメント	エンパワメント		17	地域の支援力をアセスメントする技術	39	84.8	3	6.5	2	4.3	2	4.3
			18	関係者(機関)を支援する技術	35	76.1	7	15.2	3	6.5	1	2.2
			19	関係者(機関)による援助の効果・限界を見極める技術	31	67.4	9	19.6	3	6.5	3	6.5
			20	関係者(機関)とエンパワメントする技術	32	69.6	7	15.2	1	2.2	6	13.0
関係づくり	傾聴・面接 技術 参加にむ けた働き		21	話しやすい関係をつくる技術	37	80.4	7	15.2	1	2.2	1	2.2
			22	共感して聴く技術	38	82.6	7	15.2	0	0.0	1	2.2
			23	信頼関係を構築する技術	39	84.8	6	13.0	0	0.0	1	2.2
			24	問題を提起する技術	39	84.8	7	15.2	0	0.0	0	0.0
			25	見通しを持って働きかけをする技術	39	84.8	7	15.2	0	0.0	0	0.0
			26	キーパーソンを選定する技術	40	87.0	6	13.0	0	0.0	1	2.2
			27	関係者(機関)を巻き込む技術	36	78.3	7	15.2	2	4.3		0.0
施設内外との共有・合 意	場の設定 フレクシ ョン		28	場を設定する技術(雰囲気づくりも含む)	37	80.4	8	17.4	1	2.2		0.0
			29	参加を働きかける技術	37	80.4	9	19.6	0	0.0		0.0
			30	円滑な話し合いを進める技術	38	82.6	8	17.4	0	0.0		0.0
			31	相手に合わせた資料作成・説明ができる技術	38	82.6	7	15.2	1	2.2		0.0
			32	問題の整理と対策を提案する技術	39	84.8	4	8.7	3	6.5		0.0
			33	地域で支え、解決することの必要性を説明できる技術	40	87.0	4	8.7	2	4.3		0.0

応用・発展スキル	合意にむけた働き	34・問題を共有する技術	39	84.8	6	13.0	1	2.2	0.0				
		35・資料をもとに合意をえる技術	37	80.4	6	13.0	2	4.3	1	2.2			
	協力・協働活動	交渉	36・合意形成を推進する技術	38	82.6	5	10.9	2	4.3	1	2.2		
			37・支援・協力を依頼する技術	37	80.4	9	19.6	0	0.0	0.0			
		協力・協働	交渉	38・必要な人材、資源を捜す技術	36	78.3	8	17.4	2	4.3	0.0		
				39・交渉する相手を見極める技術	30	65.2	14	30.4	2	4.3	0.0		
			協力・協働	交渉	40・説得する技術	30	65.2	14	30.4	2	4.3	0.0	
					41・主体的な参加を促す技術	36	78.3	9	19.6	1	2.2	0.0	
				システム・事業の運営	企画	42・関係者(機関)と協働する技術	41	89.1	4	8.7	1	2.2	0.0
						43・協働のためのシステムを作る技術	37	80.4	8	17.4	1	2.2	0.0
						44・会議・事業を計画する技術	34	73.9	11	23.9	1	2.2	0.0
						45・対象者選定の技術	31	67.4	14	30.4	1	2.2	0.0
	企画・政策	企画	46・プログラム開発技術	26	56.5	16	34.8	4	8.7	0.0			
			47・必要な関係者(機関)を選択する技術	37	80.4	9	19.6	0	0.0	0.0			
			48・必要な関係者(機関)をまきこむ技術	38	82.6	7	15.2	1	2.2	0.0			
			49・会議・事業等の運営の技術	33	71.7	11	23.9	1	2.2	1	2.2		
			50・自主的な活動を側面的に支援する技術	40	87.0	4	8.7	1	2.2	1	2.2		
			51・活動を評価し、次の課題を明確にする技術	39	84.8	4	8.7	1	2.2	2	4.3		
			企画・政策	決定・方向づけ	52・「あるべき姿」を描くことができる技術	37	80.4	7	15.2	2	4.3	0.0	
					53・方針を決定する技術	31	67.4	12	26.1	3	6.5	0.0	
					54・役割を明確にする技術	35	76.1	9	19.6	2	4.3	0.0	
					55・戦略的に働きかけ先を見定める技術	34	73.9	9	19.6	3	6.5	0.0	
	企画・政策	企画	56・活動・計画の可能性を判断する技術	34	73.9	10	21.7	2	4.3	0.0			
			57・活動・事業を企画する技術	36	78.3	6	13.0	3	6.5	1	2.2		
			58・二一ス計画に反映させる技術	40	87.0	4	8.7	2	4.3	0.0			
			59・関係者(機関)が活動を企画するための素材を提供する技術	34	73.9	9	19.6	3	6.5	0.0			

表7-3 保健機関に勤務する保健婦のスキルに関する意見

スキル3	2人	スキル3-8は表現がわかりにくい スキル3-8は保健婦だけでなく他職種、企画調整部門との連携も必要
スキル8	1人	意味がわかりにくい スキル7との違い
スキル9	2人	実態調査を業者に委託する場合のスキルが必要 スキル9-11は企画調整担当者との連携が必要
スキル10	1人	分析する技術は個人の力のみでは限界がある
スキル11	1人	情報、統計の方法、分析の仕方などが弱い
スキル13	1人	スキル13-16は保健婦としてというよりも職業人としての基本的なもののような気がする
スキル14	3人	統計的処理の手法を学ぶ 相手にわかりやすい資料作りが難しい スキル14,15は保健婦だけでなく保健所機能として必要
スキル17	3人	スキル17-20表現がわかりにくい スキル17-20は企画・政策スキルにいれてもいいのではないか スキル17-20は、保健婦だけでなく他職種との連携が必要
スキル18	1人	表現がわかりにくい
スキル19	2人	限界の見極めが難しい 意味がわかりにくい
スキル20	2人	エンパワメント技術は応用・発展スキルではないか 自己評価でよいのか
スキル21	3人	スキル21-27の関係づくりは基礎的スキル 話しやすい関係は、信頼関係により作れる スキル21-23はバラバラだと思わない、傾聴・面接技術というひとつのくりでよい ①事象がきちんと聴けるか②そこに附随している感情がきちんときけるか ③結果として信頼が生じる
スキル22	1人	共感だけでなく面接の技術とした方がよい
スキル23	1人	どのような方法なのかイメージがつきにくい
スキル27	2人	巻き込む技術という表現は不適切ではないか スキル27-30は、見通しを持って働きかけることで巻き込むことにつながる
スキル30	1人	本音の出せる雰囲気作りが必要である
スキル34	2人	「問題を共有化できる技術」ではないか スキル34と35は合わせて一つのスキルではないか
スキル35	1人	合意を得る技術としてスキル36,37はまとめることができる
スキル36	1人	スキル36と37は合わせて一つのスキルではないか
スキル37	2人	自主的に活動する意欲を持ってもらうことが難しい スキル41との関連
スキル39	1人	的確にとらえるにはどうしたらよいか
スキル40	4人	説得と交渉は違うので、交渉力とした方がよい おしつけにならないことが大切だと思う 説得ではなく、「納得させる技術」ではないか 評価難しいのでは
スキル46	1人	機器の計画的配置
スキル48	2人	「必要な関係者を参画させる技術」ではないか まきこむという表現でない方がよい
スキル52	2人	将来のあるべき姿をイメージすることはひとりでは難しい 「あるべき姿」の表現あいまいである
スキル53	1人	関係者との調整

表8-1 教育分野の対象者の属性(N=42)

	人	%
所属		
大学	10	23.8
短大専攻科	8	19.0
養成所(保健婦1年課程)	23	54.8
その他	1	2.4
教育経験年数		
0-4年	20	47.6
5-9年	16	38.1
10-14年	4	9.5
15-19年	1	2.4
不明	1	2.4
保健婦経験年数		
0-4年	4	9.5
5-9年	17	40.5
10-14年	11	26.2
15-19年	4	9.5
20-24年	2	4.8
25-29年	1	2.4
30-34年	2	4.8
不明	1	2.4
年代		
20代	2	4.8
30代	18	42.9
40代	12	28.6
50代	8	19.0
60代	2	4.8

表8-2 教育機関に勤務する保健婦の地域活動のスキルの妥当性について

スキルの分類		番号	スキルの内容	教育機関に勤務する保健婦 (N=42)							
項目	細項目			妥当	まあまあ妥当	不適切	不明				
			人	%	人	%	人	%			
基礎的スキル	地域診	1	・社会情勢の変化を把握する技術	35	83.3	5	11.9	2	4.8	0.0	
		2	・ニーズ・情報を把握する技術	36	85.7	5	11.9	1	2.4	0.0	
		3	・事例の問題と地域の課題を関連させる技術	38	90.5	2	4.8	0	0.0	2	4.8
		4	・関係者(機関)の実態を把握する技術	33	78.6	8	19.0	1	2.4	0.0	
		5	・関連する関係者(機関)の範囲を判断する技術	28	66.7	12	28.6	1	2.4	1	2.4
		6	・支援関係を判断する技術	34	81.0	7	16.7	1	2.4	0.0	
		7	・関係者(機関)の支援力、協調力をアセスメントする技術	33	78.6	8	19.0	1	2.4	0.0	
		8	・関係性の中にある問題を引き出す技術	36	85.7	5	11.9	1	2.4	0.0	
		9	・実態調査を企画、実施する技術	38	90.5	4	9.5	0	0.0	0.0	
		10	・地域の実態を分析する技術	39	92.9	3	7.1	0	0.0	0.0	
		11	・情報を統合する技術	36	85.7	6	14.3	0	0.0	0.0	
		12	・潜在的な問題を把握する技術	36	85.7	5	11.9	1	2.4	0.0	
		13	・日頃から情報収集する技術	35	83.3	5	11.9	1	2.4	1	2.4
		14	・資料作成技術	35	83.3	6	14.3	0	0.0	1	2.4
		15	・情報の管理(整理を含む)技術	30	71.4	10	23.8	2	4.8	0.0	0.0
		16	・伝達技術	35	83.3	4	9.5	2	4.8	1	2.4
エンパワメント	エンパワメント	17	・地域の支援力をアセスメントする技術	38	90.5	3	7.1	1	2.4	0.0	
		18	・関係者(機関)を支援する技術	29	69.0	11	26.2	1	2.4	1	2.4
		19	・関係者(機関)による援助の効果・限界を見極める技術	31	73.8	9	21.4	1	2.4	1	2.4
		20	・関係者(機関)とエンパワメントする技術	28	66.7	11	26.2	1	2.4	2	4.8
関係づくり	傾聴・面接技術	21	・話しやすい関係をつくる技術	35	83.3	5	11.9	1	2.4	1	2.4
		22	・共感して聴く技術	35	83.3	6	14.3	1	2.4	0.0	
		23	・信頼関係を構築する技術	38	90.5	4	9.5	0	0.0	0.0	
		24	・問題を提起する技術	35	83.3	7	16.7	0	0.0	0.0	
		25	・見通しを持って働きかけをする技術	38	90.5	3	7.1	1	2.4	0.0	
		26	・キーパーソンを選定する技術	33	78.6	9	21.4	0	0.0	0.0	
		27	・関係者(機関)を巻き込む技術	33	78.6	8	19.0	1	2.4	0.0	
施設内外との共有・合意	場の設定	28	・場を設定する技術(雰囲気づくりも含む)	32	76.2	10	23.8	0	0.0	0.0	
		29	・参加を働きかける技術	32	76.2	9	21.4	1	2.4	0.0	
		30	・円滑な話し合いを進める技術	33	78.6	8	19.0	1	2.4	0.0	
		31	・相手に合わせた資料作成・説明ができる技術	38	90.5	2	4.8	2	4.8	0.0	
		32	・問題の整理と対策を提案する技術	40	95.2	2	4.8	0	0.0	0.0	
		33	・地域で支え、解決することの必要性を説明できる技術	37	88.1	4	9.5	1	2.4	0.0	

合意にむ けた働き	協力・協 働活動	34・問題を共有する技術	35	83.3	6	14.3	1	2.4	0.0	
		35・資料をもとに合意をえる技術	34	81.0	8	19.0	0	0.0	0.0	
協力・協 働活動	交渉	36・合意形成を推進する技術	32	76.2	10	23.8	0	0.0	0.0	
		37・支援・協力を依頼する技術	31	73.8	10	23.8	1	2.4	0.0	
		38・必要な人材、資源を捜す技術	31	73.8	9	21.4	2	4.8	0.0	
		39・交渉する相手を見極める技術	29	69.0	11	26.2	2	4.8	0.0	
		40・説得する技術	25	59.5	15	35.7	2	4.8	0.0	
		41・主体的な参加を促す技術	37	88.1	4	9.5	1	2.4	0.0	
		42・関係者(機関)と協働する技術	37	88.1	5	11.9	0	0.0	0.0	
		43・協働のためのシステムを作る技術	35	83.3	6	14.3	0	0.0	1	2.4
		44・会議・事業を計画する技術	33	78.6	9	21.4	0	0.0	0.0	0.0
		45・対象者選定の技術	28	66.7	13	31.0	0	0.0	1	2.4
システム・運 事業の運	運営	46・プログラム開発技術	25	59.5	17	40.5	0	0.0	0.0	
		47・必要な関係者(機関)を選択する技術	31	73.8	10	23.8	0	0.0	1	2.4
		48・必要な関係者(機関)をまきこむ技術	31	73.8	10	23.8	0	0.0	1	2.4
		49・会議・事業等の運営の技術	30	71.4	10	23.8	1	2.4	1	2.4
		50・自主的な活動を側面的に支援する技術	35	83.3	7	16.7	0	0.0	0.0	0.0
		51・活動を評価し、次の課題を明確にする技術	38	90.5	3	7.1	1	2.4	0.0	0.0
		52・「あるべき姿」を描くことができる技術	34	81.0	7	16.7	1	2.4	0.0	0.0
		53・方針を決定する技術	36	85.7	5	11.9	1	2.4	0.0	0.0
		54・役割を明確にする技術	34	81.0	7	16.7	1	2.4	0.0	0.0
		55・戦略的に働きかけ先を見定める技術	33	78.6	7	16.7	1	2.4	1	2.4
企画・政策 スキ	企画	56・活動・計画の可能性を判断する技術	33	78.6	7	16.7	2	4.8	0.0	
		57・活動・事業を企画する技術	36	85.7	6	14.3	0	0.0	0.0	
		58・ニーズを計画に反映させる技術	36	85.7	6	14.3	0	0.0	0.0	
		59・関係者(機関)が活動を企画するための素材を提供する技	28	66.7	13	31.0	1	2.4	0.0	

表8-3 教育機関に勤務する保健婦のスキルに関する意見

スキル1	2人	地区診断として“社会情勢の変化の把握”の意味があいまい、広い意味を含むのか “社会情勢の変化の把握(予測、創造)”と“社会情勢の把握”の両方が必要
スキル2	1人	スキル13と重複しているのではないか
スキル5	2人	範囲とは、役割、力量、支援、協力のことか 範囲という言葉に違和感を感じる スキル5-7は関連しているのではないか
スキル6	2人	内容の表現が不明確でわかりにくい 「支援関係の判断」というイメージがつきにくい
スキル7	1人	「支援力」と「協調力」の意味(定義)は、同列に並べられるものなのか
スキル12	2人	潜在的な問題だけでなく、把握にとどまらず問題を明確にしなければならない 内容の表現が不明確でわかりにくい
スキル13	1人	どこにいくとその情報が入手できるのかがわかる データを蓄積することが必要である
スキル14	1人	スキル14-16の違いはなにか
スキル15	2人	スキル15,16ほどの位のレベルかわからない プライバシーの考慮を含めての管理が必要ではないか
スキル17	1人	スキル17-20は意味がわかりにくい
スキル18	2人	スキル18-23は、必要だと思うが人間の基本的なものではないか 機関の支援が必要か
スキル20	2人	エンパワメントという言葉は、専門用語として定着していない この意味がくみ取れない
スキル23	1人	保健婦教育以前の一般教養的能力
スキル24	2人	スキル24-27の関係づくりの細項目としての“参加にむけた働きかけ”を別にした方がよい 提起より創起させる(気づかせる)技術が必要ではないか
スキル27	2人	エンパワメントとの関係、協力・協働活動との関係を明確にする スキル25と意味合いが似ているのではないか
スキル30	1人	“円滑な”の意味があいまい
スキル31	1人	スキル14との違いが明確ではない、スキル14と16を統合したものか
スキル33	1人	視点が違う
スキル35	1人	スキル35と36の違い
スキル41	1人	スキル29との違い、出席と参画の違い
スキル45	2人	スキル45-47の違い 内容にあわせた対象を選定する必要があること
スキル46	1人	「プログラム開発」というとコンピューターをイメージしてしまう
スキル47	2人	スキル47, 48は企画の段階との区別がはっきりしない スキル5との違い
スキル52	1人	あるべき姿は主観的な用語である
スキル55	1人	内容が盛りだくさんすぎるのではないか
スキル56	3人	スキル56-59は企画がどこまでの範囲か システム事業の運営と企画との違い 不可能を前提とした計画はない スキル56-59はスキル44-46との概念の順位づけ
スキル57	2人	必要性を判断する能力が必要 具体的な内容がはっきりしない

表9 公衆衛生看護活動のねらい・視点

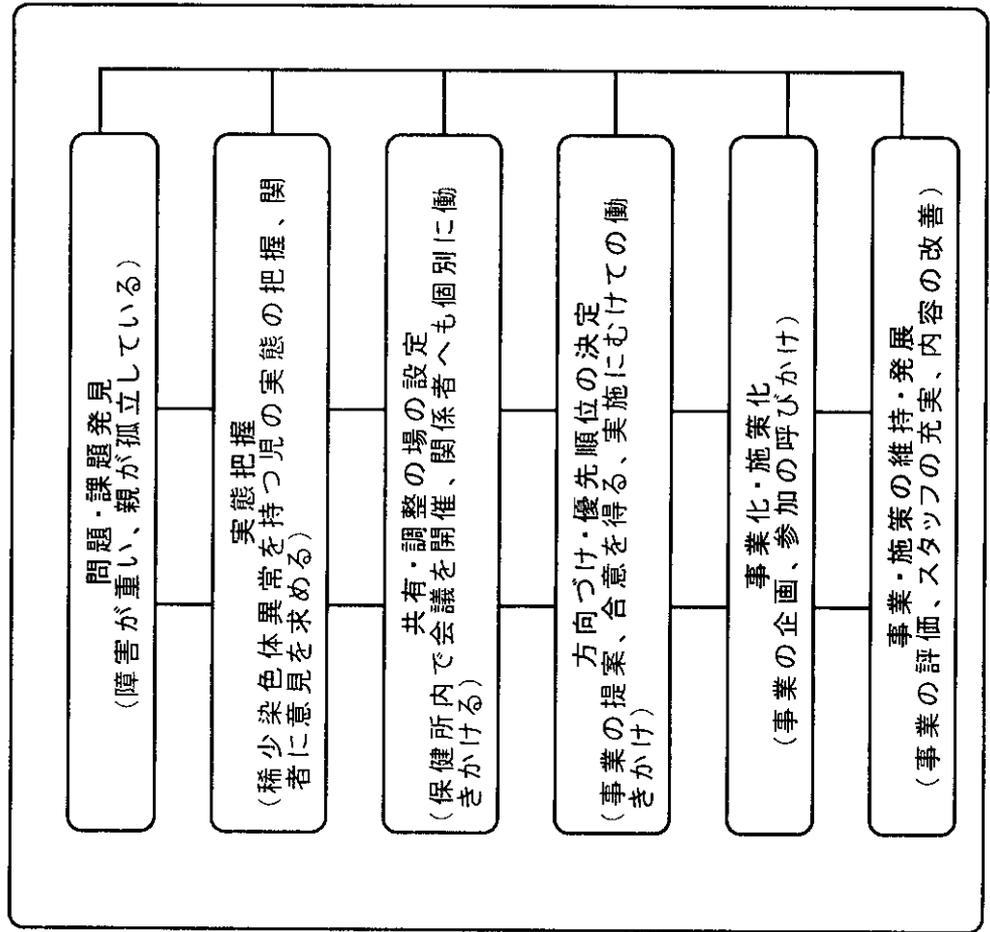
展開方法の段階	ねらい・視点	内 容
問題発見	地域で生活できる	<ul style="list-style-type: none"> ・病気や障害があっても地域で生活できる ・ボランティアが育たない地域といわれるが、この地区では可能ではないか ・地域のサポートが必要ではないか ・これまでに独居障害高齢者の在宅生活を地域の人々が支えた地区がある ・1ケースへの援助が成功すると他のケースにも良いを影響及ぼす
	協働	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡会から外れやすい機関も考慮する ・関係機関が問題意識の共有化を図る ・関係機関会の係わり方がまちまちなのを改める ・関係機関もどうしたらいいか困っている ・もっと広範な機関が集まる必要性がある ・市保健婦がケースへの支援に困っている ・関係機関から本人の状況を把握する
	潜在ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ問題を持っている人が多いことに気づく ・保健婦により援助のレベルがまちまちである ・モデル事業が終了するが、何とか継続していきたい ・法改正がされるが、保健所はどのような役割を担うべきか ・業務としての位置づけを明確にする
		<ul style="list-style-type: none"> ・地域のケア力を把握する
実態把握	地域のケア力	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者とサポート体制を共通認識する ・保健所の役割と近隣の役割を確認する ・地域の動きと連絡会の発展経緯を分析する
	協働	<ul style="list-style-type: none"> ・地域全体の実態を把握する ・地域の全体像を掴む
	潜在ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・本人に会えないので関係者から状況把握 ・主治医に連絡し、状況を報告する ・記録を収集・整理をし、これまでの経過をまとめる ・他機関の職員とともに事例を検討する
共有・調整	協働	<ul style="list-style-type: none"> ・各機関に参加してもらえるように働きかけをする ・各機関のどこに働きかけたらよいかを見極める力 ・関係機関に問題を提起する ・問題を共有する ・保健所内での合意をえる ・関係機関の職員と問題の共有化を図る ・ネットワークの必要性の理解 ・協働を引き出すための会議 ・関係者が自分の役割をとれるようにする ・役割を分担する ・本人の様子を関係者に伝える ・問題・課題の共有、方針、役割を決定する ・多くの機関に参加してもらえるようにする ・問題意識を共有化する ・メンバー意識を育てる ・これまで係わった人々に理解と協力を求める ・必要性について合意をえる ・各機関の合意を得るために機関のトップと実務者の両方に説明する
	地域のケア力	<ul style="list-style-type: none"> ・対応の仕方について教育する ・関係者の不安を解消するため教育する ・関係者の対応がよいことを認める ・教育プログラムに参加する ・事業の対象を確認する ・必要な事業であることを提起する

	潜在ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに保健所で援助した事例の実態を分析する ・本人の病状・生活力の判断ための資料を集積する ・意識付けを行う ・これまでの経緯を確認する ・問題提起をする
実施段階	地域のケア力	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな社会資源を開発をする ・地域の力量をアップさせる ・参加者を拡大する ・他地域へ波及するようにする ・市民の啓発になるようにする ・参加していない人にもわかるようにする ・自分たちのものであることを意識付けする ・無理のない範囲での活動の拡大への支援をする ・地域全体で問題に関われるようにする ・住民活動支援事業の創設 ・新たな社会資源の開発 ・事業化が進むような会議形態にする ・地域全体で関わるようにする ・グループ事業の事業化 ・援助の向上
	協働	<ul style="list-style-type: none"> ・リラックスできるような運営、企画をめざす ・円滑に進めるようにする(人材、予算、規約、役割分担) ・保健所の機能を活かすように働きかける
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の啓発になるようにする ・外部へのアピール

図 4 新たな保健婦の活動展開方法(事例12)

活動のテーマ：
親の希望から稀少染色体異常の児を持つ親の自主的な会の結成へ

展開方法(湯澤班が開発したものを本研究で改訂)



展開方法(湯澤班が開発)

